



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第21号(R4. 8. 30)

8月29日(月)2学期始業式と全校集会を行いました

西方を駆ける陽が少し足早になってきました。残暑はまだ続きそうですが、朝夕は心地よい風が吹くようになりました。

県内市内のコロナの状況を考えて、昨日の2学期始業式はオンラインで行いました。モニター越しではありますが、全校生徒の元気な姿を久しぶりに見ることができ、たいへんうれしく思っています。

河東中教職員一同、なによりも生徒のみなさんが元気に学校生活を送ってくれることを願っています。

夏休みに入っても部活動や社会体育での活躍が続きました

本紙第20号でお伝えしましたように、7月の中体連等で河東中生徒は日頃の練習の成果を発揮し活躍しました。その後、夏休みに入っても筑前大会・県大会・九州大会・全国大会と快進撃を続けたので、7月下旬から8月にかけての結果の概要をお知らせします。

○吹奏楽部 筑前地区中学校吹奏楽コンクール金賞→福岡吹奏楽コンクール銀賞

○野球部 県大会出場

○剣道部 重見 渉太さん・和多 こはくさん、個人戦で県大会出場

○陸上部女子 筑前大会総合優勝。(個人競技で多数県大会出場)

○陸上部男子 筑前大会総合優勝。(個人競技で多数県大会出場)

県大会総合準優勝。

※九州大会出場:2年男子1500m・橋本 隆太郎さん、

低学年男子400mR(藤城・田中・綿島・堀田・後藤・長谷)、

1年女子800m・藤田 優空さん

○柔道部 高口 怜桜さん・筑前大会55kg級5位

○水泳部 久保田 綺星さん・筑前大会200m個人メドレー第4位

新人筑前大会100m自由形第3位、200m自由形第2位(9月3日県大会)

○技術部 大久保 蓮利さん・木工チャレンジコンテスト福岡県大会優良賞

○家庭科部 佐々木心晴さん・末松煌十星さん 中学生料理コンクール敢闘賞

○ラグビー 西端渚さん 第42回九州ブロック大会で福岡県選抜チーム代表として優勝

○球友ボーイズ 全国大会出場

最長の2学期にどう自分を伸ばし成長するか 「がんばる木こりの話」

2学期の始業式式辞で話した内容を掲載します。「がんばる木こり」という話を全校生徒にしました。この話は、現在の河東中生徒の様子を見て、今なら話せると思ってしました。この話は、聞きようによっては「がんばること」「努力すること」の否定ととられかねないので、子どもにする場合は注意が必要です。しかし、今の河東中生なら誰もがこの話を誤解することなく、素直に根幹をとらえて理解してくれると思い、スライドを使って話しました。この話の教訓から、最長の2学期に河東中生徒がどう自分を伸ばし成長させるかのヒントをつかんでくれると幸いです。

ある一人の若者が森にある材木屋に就職が決まりました。若者は木こりになりました。翌日、さっそく仕事に出ました。木こりは親方から一本の斧を渡され、森の一角の木を切ることを任せられました。木こりは、やる気満々で森に入りました。その日は一日で18本の木を切り倒しました。親方は、「よく頑張ったな、この調子で明日も頼むぞ」と声をかけました。木こりは、親方の言葉に励まされ、明日はもっと頑張ろうと誓って、早めにベッドに入りました。

次の日、木こりは誰よりも早く起き、森に向かいました。ところが、その日は努力もむなし、15本が精一杯でした。「疲れているに違いない」そう考えた木こりは、日暮れとともに寝床に入りました。そして、夜明けとともに目を覚ました木こりは、「今日は何としても18本の記録を超えるぞ」と自分を奮い立たせてベッドから起き上がりました。

ところが、その日は18本どころかその半分も切り倒せませんでした。次の日は7本、そのまた次の日は5本、そして最後には夕方になっても2本目の木と格闘していました。

ここでひとつ、みなさんに考えてほしいことがあります。なぜ、木こりの切る本数が減っていったのか、という問題です。この若者の木こりは、初めてついた仕事に精一杯頑張って、来る日も来る日も一生懸命に斧をふるいました。しかし、日に日に木を切れる本数が頑張って頑張って減っていったわけです。なぜでしょうか。もうすでに気がついた人もいると思いますが、考えるヒントとして、木こりと親方の会話を聞いてもう一度考えてみてください。

何と言われるだろうかとびくびくしながらも、木こりは親方に正直に報告しました。「それでも、精いっぱい頑張ったつもりですが」。親方は、木こりの木を切る本数が減るのを経験からわかっていました。この話は人間生活一般の起こしてしまいがちなあやまりをたとえて表現したものです。

それで、親方は、木こりにこうたずねました。「最後に斧を研いだのはいつだい？」親方のこの一言でみなさんは、原因がわかったと思います。木こりは答えました。「斧を研ぐですって？研いでいる時間はありませんでした。なにせ木を切るのに精一杯でしたから」。そうです。斧は毎日、きれいに研いで磨いて使わないとすぐ摩耗して切れなくなっていきます。

この話は、人間の日常生活について、たくさんの教訓を含んでいると言われます。皆さんの生活に置き換えて考えてみてください。学習をうまく進めること。スポーツや芸術・技術の向上。大人の世界では仕事の効率。これらをたとえて表現しています。斧の刃を研ぐということは、毎日の生活のリズムを整えることの大切さを言っています。睡眠や食事、精神状態等、木こりが斧を研ぐように日々の生活で何事も整えることが大切です。長期休暇の夏休みには、えてして生活リズムがくずれがちです。しかし、今日から意図的に生活リズムを整えていきましょう。

また、斧の刃を研ぐということは、準備の大切さを言っています。受験や試合・コンクールなどで、本番で一生懸命に頑張るのは当たり前のことですが、大切なのは日頃の準備です。

さらに、斧の刃を研ぐということは、やみくもに頑張るのではなく、工夫することの大切さを言っています。もちろん、何をやるにしても頑張ることは大切です。しかし、この木こりの教訓のように物事は工夫しなければ、こんなに頑張っているのにというグチで終わってしまいます。みなさんは、今日から始まる2学期の生活で、まず生活リズムを整え、準備をしっかりと、何事にも工夫を重ねてほしいと思います。

右の写真の人物を皆さんは知っていると思います。アメリカの中学生に、「最も尊敬する人は誰か？」とアンケートをとると昔も今も常に1位になると言われる人物です。アメリカ第14代大統領のアブラハム・リンカーンです。リンカーンの言葉に、くしくもこういう言葉があります。「もし、8時間、木を切る時間を与えられたら、そのうち6時間を私は斧を研ぐのに使うだろう。」という言葉です。「がんばる木こり」の話と共通します。リンカーンが物事をなし、仕事を成功させるために大切にしてきたことは、要するに準備や整えるということです。リンカーンは、19世紀のアメリカの政策や法律を実施するためにエネルギーの大半を準備と整えることに使いました。

2学期は、最も長期の学期です。その長い2学期に学力が向上し、たくさんある学校行事・学年行事を成功させるため、事前の準備をしっかりといきましょう。日々、心を整え、体を整え、教室などの身の回りの環境を整えて、大きく成長する2学期にしてください。最も長い2学期が最も充実し、最も成長する2学期になることを期待します。

